

## 学 術 活 動

## 平成14年度福島県立医科大学看護学部公開講座委員会活動報告

地域に開かれた看護学部の象徴でもある公開講座は、地域住民、保健・医療・福祉関係者の相互の啓発を目的としている。本年度は、以下に示す3回の講座を開催した。

第1回「骨太の人生を送るために一骨が語る生活習慣一」は、地域住民、特に思春期の女子を持つ保護者を対象に開催された。基礎部門心理学の志賀令明教授により、昭和20年代から30年代の生活習慣が現在の高齢女性の骨密度に影響していること、閉経後の骨量減少を予防するための骨成長期としての思春期の重要性、が豊富な資料を用いて示された。また、ストレスへの上手な対処も骨量を保ち続けるために必要だ、ということが強調された。講演後は引き続き、実際に参加者の骨量測定を実施し好評を博した。

第2回「看護倫理に支えられた実践」は看護職者を対象にシンポジウム形式で行った。公開講座委員会委員でもある小児看護学領域の中島登美子助教授を司会に、3人のシンポジストがそれぞれの立場から話題提供を行った。本学医学部附属病院の主任看護師である渡邊智恵子氏は、自分自身の具体的な臨床体験の中から、看護実践上の倫理的問題とその対処に対する苦悩について報告した。寿泉堂総合病院看護部長の本内敦子氏は、管理者としての立場から、看護倫理の意識化を図る看護管理の実践について報告した。母性看護学・助産学領域の太田操助教授は、自身の研究テーマでもある生命倫理の視点から看護実践上の課題を指摘した。その後討論に移り、参加者からがん告知についての具体的な事例などが出され、活発な議論が交わされた。

参加者からは、「本シンポジウムを通して看護倫理が身近に感じられるようになった。」「教育や医療の現場などの実際のエピソードを交えての話しだったため、理解し

やすかった。」などの意見が聞かれた。一方、「2時間で、身近に感じるまでに至らなかった。」「とても関心のあるテーマであるが、とても難しいテーマでもあった。」との声もあった。

第3回「心身の調和一リラクゼーションのすすめ一」は、地域住民あるいは看護職者に限定せず「リラクゼーションに興味のある方」全てを対象者として開催した。講師は成人看護学領域の荒川唱子教授に依頼した。荒川教授は、米国留学中にリラクゼーションに出会い、日本の患者のために取り入れたいと研究をはじめたことであった。リラクゼーション法の概要などについて説明があった後、荒川教授の指導により呼吸法やイメージ法などのリラクゼーション法を実際に体験した。

参加者からは、「今回の講座内容を活用できそう」という声が多く、「病院内で患者さんにも、こういうイベントがあったらよいと思う。」という意見もあった。また、警察官など職務上のストレスが強いと思われる職種の参加者が多かったことは主催者の予想外のことであり、リラクゼーションへの関心の高さがうかがえた。

公開講座委員会では各回毎に参加者にアンケートを実施し、満足度や講座内容への希望などを調査している。今年度の公開講座は各回とも概ね参加者の満足が得られていた。看護職者を対象にした講座では、一方通行の講義ではなく、内容を参加者と共有することを目的にシンポジウム形式とした。今後はワークショップ形式を取り入れるなど、地域の看護職者自身が主体となる公開講座も検討していきたい。

平成14年12月20日

(公開講座委員会委員長：加藤清司)

回数	開催日	テーマ (形式)	演 者	主な対象	参加者
第1回	7/12	骨太の人生を送るために 一骨が語る生活習慣一 (講演・計測)	志賀 令明	地域住民	45
第2回	9/11	看護倫理に支えられた実践 (シンポジウム)	渡邊智恵子 本内 敦子 太田 操	看護職者	91
第3回	10/24	心身の調和 一リラクゼーションのすすめ一 (講演・体験)	荒川 唱子	地域住民 看護職者	80